

各機関・団体の取組 (令和 4 年度)

- ・ 提出いただいた取組をまとめています。
- ・ 次年度につきましても、どうぞよろしくお願いします。

委員名	令和4年度の実施内容
出雲医師会	①在宅医療・認知症対策の推進 ・在宅療養懇話会を開催し、在宅医療に関して多職種との連携を図った。 ・認知症サポート連絡会を開催し、認知症に関して関係団体と連携を図った。 ・事例検討を中心とする「認知症研修会」を開催した。 ②地域包括ケアシステムの推進 ・出雲保健所や出雲市の会議に医師会として出席し、協力・連携を行った。 ③特定健診・特定保健指導の推進 ・出雲市との会議や、会員への周知・委任状の取りまとめ等、特定健診・特定保健指導事業に協力した。 ④風しん対策事業の推進 ・委任状の取りまとめなど、風しん対策事業に協力した。 ⑤肝炎ウイルス検査事業の推進 ・委任状の取りまとめなど、肝炎ウイルス検査事業に協力した。 ⑥定期予防接種広域化事業の推進 ・委任状の取りまとめなど、定期予防接種広域化事業に協力した。 ⑦新型コロナウイルス感染症対策 ・出雲保健所・出雲市と連携し、新型コロナウイルス感染症対策を行った。 ・会員医療機関に「診療・検査医療機関」「行政検査医療機関」への働きかけをした。 ⑧新型コロナウイルスワクチン接種事業に協力 ・医療従事者・地域住民に対する新型コロナウイルスワクチン接種事業（個別接種・集団接種）に協力した。
	成果・課題等
委員名	令和4年度の実施内容
島根県薬剤師会 出雲支部	例年行っていた活動は新型コロナ感染拡大となり、ほとんどが中止となった。 医薬品安全使用講座、お薬相談会、小学生を対象とした調剤体験教室などを例年は行っている。 ・今年は、歯科医師会、医師会、薬剤師会で、糖尿病の方への歯科受診をすすめる活動を行いました。糖尿病の合併症を多くの方に知らせることができたと思います。 ・お薬手帳を有効活用する為に、高齢患者さんに携わる方（ケアマネ・訪問看護・薬局）の名刺をお薬手帳カバーに挟みこむことで連携しやすい体制づくりを実施。 ・学校薬剤師の学校訪問がコロナ禍で出来にくい状態であったが、環境衛生検査、くすりの教室、感染対策へのアドバイスなど適切に行っている。
	成果・課題等

委員名	令和4年度の取組内容
出雲市コミュニティセンター 会長	依然コロナ禍の中にあるが、出雲市内43コミュニティセンターでは、活動自粛による利用回数の減少などの影響は改善の向きにあり、コロナ禍前の活動に戻りつつあると感じている。 各地域の事情に応じた各種の健康づくりなどの活動が実施されている。
	成果・課題等
	感染対策などに考慮しながら、活動しやすい環境づくりに努め、元気ですごせる地域づくりを進める。 また、健康づくり活動の情報提供に努め、参加者の拡大につなげていきたい。
委員名	令和4年度の取組内容
地域生活支援センターふあっと	・令和3年度から運用された「出雲市地域生活支援拠点（ささえ愛サポート）」の緊急時対応や体験利用のためのアパートを活用し、地域移行や自立生活に向けた支援に取り組んでいる。 ・一人暮らしを始めた精神障がい者の生活課題を解決するため自立生活援助事業を積極的に活用するとともに、緊急時対応を行う地域定着支援も行っている。 ・精神保健包括支援会議に参画し、支援困難事例等の検討や問題解決に協力している。
	成果・課題等
委員名	令和4年度の取組内容
出雲市食のボランティア協議会	〔乳幼児期〕 ・子育てサークルを対象とした旬の食材等の食育講話や試食の提供 〔学童・思春期〕 ・親子クッキングの開催 ・児童クラブでの食の講話 ・小学生の環境学習における地元産物を使用した昼食作り ・子ども食堂への支援 〔青年・壮年期〕 ・地区の健康まつりや文化祭等における減塩の啓発、適塩みそ汁の試飲 ・自主グループを対象とした料理教室の開催（郷土料理等） 〔高齢期〕 ・高齢者サロンでの減塩の啓発やレシピ配布等の食育活動 〔その他〕 ・食育推進ネットワーク会議の委員として、R3～4年度の取組テーマ「よく噛んで食べよう！」に沿った取組の推進。毎年作成しているたよりに、よく噛んで食べることの大切さについての記事を掲載し、活動時にそれを用いて啓発を行った。
	成果・課題等
	〔成果〕 ・コロナ禍における食に関する活動が難しい状況があるが、感染対策や工夫をしながら少しずつ再開できている。また、広報誌への記事掲載など、新たな活動の依頼もあり、活動の幅を広げることができた。 〔課題〕 ・コロナ禍の影響により、地域での啓発の機会が減っている。 ・アフターコロナに向けて、活動の再開や地域や他の団体との連携を強化していく必要がある。

委員名	令和4年度の実施内容
出雲市学校保健会	1 検診、検査、調査事業 ・腎臓検診（検尿） ・心臓集団検診 ・成長曲線判定委員会 ・保健統計調査 2 研修事業 ・保健主事部会・・・合同研修会（11月30日）講演会 ・養護部会・・・合同研修会（8月5日）講演会 ブロック別研修会、校区別・校種別研修会 保健統計作成・分析等 3 派遣事業 ・全国学校保健主事研究協議会への派遣（7月） 4 研究委託事業 ・令和3～4年度指定：出雲市立さくら小学校 ・令和4～5年度指定：出雲市立南中学校 5 功労者表彰事業 功労者表彰式（2月16日） 6 広報事業 ・学校保健統計誌作成，配布 ・機関紙「いずもの学校保健」発行 7 理事会 6月理事・評議員会 12月理事会 2月理事会 （すべて書面開催）
	成果・課題等
	・ 新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザの同時流行により、学校現場は感染症対策に苦慮している。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変わることで、学校での対応がどのように変わるのか、また、感染予防対策の方法など、見通しがつかない。 ・ マスクの取り扱いについて、子ども達の発育・発達の妨げにならないよう配慮するためにはどうしたらよいか。

委員名	令和4年度の実施内容
島根県立中央病院	県立中央病院は、出雲地域における救命救急を支えるとともに他の医療機関を支える観点から、在宅療養患者の救急増悪時における夜間休日の受け入れなど、地域の医療を支える役割を担っている。 その他、出雲県域における健康増進、地域医療の支援、地域包括ケアシステムの構築の観点から、主に以下の取組を進めていく。 1. 地域医療支援病院として、地域の医療者の研修機会の確保や地域住民への健康増進に向けた普及活動を実施している。 ○健康ミニ知識講座（月1回程度） ○市民公開講座（年2回程度） ○出前講座（随時） ○ケーブルテレビ制作・放送（年5回程度） ○医療従事者向け研修会 ○地域救急隊員の教育（症例検討会・実習受入） 2. 地域包括ケアシステムの構築を支援し、切れ目の無い入退院を確保する観点から、以下のとおり取組を進めて行く。 ○退院カンファレンス・症例検討カンファレンスの実施 ○退院前後訪問指導 ○入退院支援・地域医療連携センターによる連携の推進 ○まねネットの活用、推進 3. 地域包括ケアシステムの構築に向け、当院の医療機能を活用し、在宅医療の支援や地域課題の解決のために、以下の取組を進めて行く。 ○地域医療機関への支援 ・24時間体制で重症患者を受け入れる病床の確保 ・機器の共同利用、腹水ろ過業務受託 ・地域医療機関からの紹介による診療予約、検査予約、栄養指導の実施 ・看護師の特定行為研修の実施 ○新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるための病症確保等 ○重症心身障がい児の短期入所の実施
	成果・課題等

委員名	令和4年度の取組内容
県立こころの医療センター	保健・福祉・一般医療との信頼に基づいた機能分化や連携の推進に取り組み出雲圏域はもとより県全体の精神科医療の基幹病院としての役割を果たしていく。 ○児童思春期診療の分野では「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、各保健所の事例研修や圏域会議にスタッフを派遣し指導、助言を行っている。 ○「精神科救急情報センター」を設置し休日及び夜間に全県からの相談対応等の業務を行っており、令和4年度は12月末時点で、7,712件の電話相談対応を行った。 ○隠岐地区における精神科医師の不足を補うための医師派遣を実施。 ○精神分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、入院中からの退院支援会議の開催、他職種による精神科訪問看護等を実施するなど地域医療支援にも努めている。
	成果・課題等
	地域生活への移行や人口減少に伴い、県内の精神科医療の入院患者が減少していくことが予想され、当院の患者数も減少傾向にあることから、より多くの患者さんに利用してもらえるよう対策を講じる必要がある。
委員名	令和4年度の取組内容
出雲市立総合医療センター	総合医療センターでは、医療政策上必要な役割及び公立病院として担う役割を次の5つのフラッグとして掲げ運営しています。 （医療政策上必要な役割） 1. 急性期・回復期・慢性期医療の提供と在宅医療の推進 2. 充実した予防医療の提供 3. 高齢者の急性期医療の提供 （公立病院として担う役割） 4. 市立診療所への支援 5. 1次及び2次救急医療の提供 （令和4年度の主な取組） ①新型コロナウイルス感染症対応 発熱外来、コロナ患者の入院受入やワクチン接種の実施 ②高度急性期病院の後方支援 ③在宅医療提供体制整備の推進 令和4年4月には在宅療養支援病院（機能強化型）の施設基準を取得し、在宅医療のさらなる推進をめざしています。 ④予防医療の充実 令和4年6月から「心臓ドック」を新たに開始し、地域住民の健康維持のため、健康診断や各種ドック等の予防医療の充実に向けて取り組んでいます。また、令和3年度末で運用を終了したPET-CT装置のエリアについては、現行の健診センターを拡張し、受検者数の増加及び女性に安心して受検していただける環境整備を併せて行うこととしており、令和6年度からの本格運用をめざしています。 ⑤公立病院経営強化プランの策定 国から策定要請のあった「公立病院経営強化プラン」については、国のガイドラインに基づき、県や出雲医療圏の医療機関と協議を行いながら、令和5年度末を目途に策定を予定しています。
	成果・課題等

委員名	令和4年度の実施内容
出雲地区歯科衛生士会	・ 出雲圏域事業での活動・協力 ・ 出雲市の乳幼児期から成人、高齢期までの様々なライフステージの方々を対象とした歯科保険事業の協力。 ・ 通いの場・高齢者サロン等の事業において、フレイル・オーラルフレイル予防啓発を伝え、口腔機能の向上・維持による介護予防に取り組む。 ・ 8020よい歯のコンクール、親と子のよい歯のコンクールに向けての啓発。 ・ 出雲市歯周病検診、後期高齢者歯科口腔健康診査の周知、受診啓発。 ・ 出雲市生活習慣病予防教室等をはじめとした教室・イベントにおいて、歯周病予防の大切さ、全身疾患との関連等の啓発。 ・ 出雲市地域ケア個別会議への参画。
	成果・課題等
	・ 思春期から青年期・壮年期の方々に向けて啓発する機会が少ないこと。 ・ 乳幼児健診等で活動する地域活動歯科衛生士の人材確保が進まないこと。 ・ コロナ禍により小学校のフッ化物洗口の実施校が減少し、本会の歯科学習の機会も減少した。
委員名	令和4年度の実施内容
出雲市歯科医師会	各健診事業への参加 ・ 1歳6ヶ月健診、3歳児健診 ・ 出雲市歯周病検診 ・ 後期高齢者歯科口腔検診
	成果・課題等
	乳幼児期：虫歯のある子とない子の差が激しい 学童期： 児童クラブでのおやつの問題が改善されない 青年期： 定期受診する人が少ない 高齢期： 認知症の方、通院困難な方などの口腔管理
委員名	令和4年度の実施内容
出雲市高齢者クラブ連合会	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、外出機会や人との交流が少なくなり、高齢者の体力の低下や社会的孤立が心配されるなか、多くのクラブが活動の再開を現在も模索しています。 国が示す「新しい生活様式」を基に感染防止に配慮しながら、工夫を凝らし出来る活動をこなしてきた1年間でした。 活動を通してフレイル予防や社会的孤立の防止に対して、今後の歩み方が少し見えてきたように感じます。
	成果・課題等

委員名	令和4年度の実施内容
出雲市消防本部	病院前救護体制の確立について （１）救急現場活動について、検証医師及び指導的立場の救急救命士による事後検証を行い、職員へフィードバックを実施した。 （２）救急隊員教育として、傷病者への対応能力の向上や医学的知識の習得のため、各種セミナーや症例検討会を開催した。 （３）医師・看護師の救急車同乗実習として研修者を受け入れた。 （４）救急現場で医療行為を実施するための病院実習（気管挿管、薬剤投与、生涯教育）を実施した。 （５）傷病者の早期搬送に向け、医療機関と連携し情報共有を図った。
	成果・課題等
	○救急出場件数の増加について 令和4年の救急出場件数が7200件を超え過去最高を記録しました。超高齢化社会に突入し、2025問題、2040問題が控えているなかで、救急の需要は今後更なる増加が予想され、病院前救護体制の検討整備が必要であると考えます。また、地域包括ケアシステムの構築に伴い、在宅医療と救急関係機関との連携も今後はより重要となってくると考えます。 ○AEDの設置普及に伴う有効活用について 平成16年の一般市民によるAEDの使用が始まって以降、公共施設や事業所などAEDの設置が普及してきました。消防や関係団体で把握している設置数は約600件、把握していないAEDを含めると、それ以上の設置が見込まれます。今後はこの普及してきたAEDをどう有効活用するかが課題であると考えます。救命率の向上へ向け、市民と一体となった体制を構築していく必要があります。 ○地域包括ケアにおけるACPRについて 救急現場において、延命処置拒否の対応が求められ、救命及び搬送を業務とする救急隊が、傷病者ご本人やご家族の意思に沿うことができず苦慮する場面があります。このような課題への解決には、まだ時間が必要だと思われませんが、今後もさらに医療、行政、福祉の連携が不可欠であり、このような現状を知っていただくことが必要と考えます。

委員名	令和4年度の取組内容
島根県訪問看護 ステーション協 会出雲支部	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、出雲支部の所長会はWEB会議を行っていった。その中で在宅での新型コロナウイルス感染症の自宅療養者の訪問看護や健康観察において、各ステーションがそれぞれに抱えている疑問や問題について情報共有や意見交換を行い、連携しながら取り組んだ。 ・各研修や在宅療養懇話会等に参加し、在宅医療に関して多職種との連携を図った。
	成果・課題等
委員名	令和4年度の取組内容
島根県保険者協 議会	○医療費及び特定健診結果の分析（報告書及び概要版の作成） ○特定健診及びがん検診に関する受診勧奨用リーフレットの作成 ○特定保健指導技術研修会の開催 ○島根県医師会と以下2つの集合契約を締結した。 ・診療における検査データの活用 特定健診等受診率向上を目的として、治療中の特定健診未受診者に係る検査データについて、医療機関から保険者に提供する仕組みを構築。 ・特定保健指導の実施 特定保健指導実施率向上を目的として、より多くの委託先医療機関確保を図るため、特定健診等に係る集合契約に特定保健指導を追加。
	成果・課題等
	○医療費等分析事業から、島根県においては、高血圧性疾患等の生活習慣病に係る医療費が高く、肥満者や運動習慣のない人が多い傾向が見られた。生活習慣の改善や重症化予防に関する有効な取組が必要と考えられる。
委員名	令和4年度の取組内容
島根大学医学部 環境保健医学講 座	・市民公開講座「賢い消費者になろう」 「食品」は生活を取り巻く環境の中でも非常に重要な要素ですが、近年、多くの人たちが利用するようになった健康食品について、上手な選び方、使い方を理解してもらうことを目的に市民公開講座を開催し、30人の参加がありました。 ・県民向けeラーニングシステム「しまねMAMEインフォ」 島根県の国保ヘルスアップ事業の委託を受け、「しまねMAMEインフォ」を開設。 https://mops.netrecorder.jp/mameinfo/direct?page=sub1/top 現在、10のコンテンツを公開。続々新作を導入予定。
	成果・課題等
	・座学やeラーニングの効果は見えにくい。特に「しまねMAMEインフォ」では、視聴数などのフィードバックで成果の把握に取り組みたい。

委員名	令和4年度の取組内容
出雲地区栄養士会	1 出雲圏域健康長寿しまね推進会議の構成団体としての活動 各種イベントに参加しての啓発活動 活動交流会（令和4年12月14日）におけるミニ研修を担当した。 テーマ：「美味しく！楽しく！健康づくり」 2 会員個々の活動として ・各職域、職場において栄養管理、栄養改善、栄養指導、食育 ・地域での栄養改善の啓発、料理教室、講演等 ・在宅栄養・介護予防への取り組み
	成果・課題等
	会員のスキルアップのための研修 圏域の調査結果などの提供を受け、共通理解をしながら進めていく。
委員名	令和4年度の取組内容
出雲地域介護保険サービス事業者連絡会	【組織内会議・研修関係】 ・例年6月に開催している総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し書面開催とした。 ・zoomアカウントを取得し、オンライン会議や研修会の開催体制を整えた。 ・全体研修会：オンラインで出雲地区老人ホーム連絡協議会との共催で実施した。 ・各部会研修：通所リハビリテーション部会で、テーマ「視覚リハビリテーションとは？～視力そのままでADL・QOLを上げるリハビリ～」で開催した。（30名） ・意見交換会：小規模多機能部会がオンライン開催した。 ・幹事会：春、秋、研修打合せを集合形式で開催した。また、3月に次年度計画策定のため開催予定としている。 【行政機関（出雲市・出雲保健所等）との連携】 ・出雲市介護保険運営協議会（介護給付費部会・地域密着型サービス運営委員会）委員⇒会長（協議会2回、部会2回開催） ・出雲地域保健医療対策会議⇒会長（本日開催） ・出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会⇒副会長（4回） ・医療・介護連携専門部会⇒副会長2名 ・出雲市上下水道料金審議会委員⇒副会長 ・出雲市介護人材の確保・定着に係るプロジェクト会議委員⇒役員11名※今年度未開催 ・行政が主催する研修会等について会員事業所へメールで周知し参加を促した。 【他団体との連携】 ・各種職能団体主催の研修会について、随時会員事業所へメールで情報発信し周知を行った。 ・各種団体から依頼のあった研修会の後援を行った。
	成果・課題等
	・オンラインではあるが3年ぶりに全体研修会を開催し、100名を超える会員事業所職員の参加があった。介護サービス共通の課題である「認知症のある方への向き合い方」をテーマとした講義であり、会員事業所に興味を持ってもらえたのではないかと考える。次年度以降は集合研修を開催し、会員同士が直接顔を合わせることができるよう計画を進める予定である。 ・新型コロナウイルス感染症に関する対応について、感染法上の位置づけが変更になった以降について、行政のバックアップやサポート体制がどのようになるのか介護保険サービスを行う事業者は非常に不安を感じている。今後、連絡会において各事業者へサービスを提供する上での課題について調査等行い、不安なくサービス提供できるよう行政機関との情報共有や協議の場を設けることも必要と考えている。

委員名	令和4年度の取組内容
出雲商工会議所	1. 保健所寄稿の「働きざかりの健康作り情報」を会議所報「出雲」（毎月発行）に掲載中 2. 健康に関するチラシ等を諸会議にて配付 3. 出雲商工会議所報「出雲」にて、健康経営優良法人認定を取られた企業を取組とともに紹介 以上の取り組みと通じて、企業へ健康づくりの必要性をPR
	成果・課題等
	健康経営については認知度が上がってきているように感じるので、引き続き掲載を行っていきたい。
委員名	令和4年度の取組内容
島根県看護協会 出雲支部	○地域における健康支援・療養支援に関する看護研修会を実施 ○まちの保健室事業 住民の健康に対する関心を深め、疾病予防や健康づくりへの取り組みを推進するため、健康増進課の保健師と協同し、市内3カ所で開催された健康フェスティバル等に参加し、健康相談、血圧測定、体脂肪率測定等を実施した。 ○看護職の人材確保 ナースセンターが実施している市内の進学ガイダンス・出前事業に参加し、看護職のアピールを行った。
	成果・課題等
	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、概ね計画通りに活動できた。今後も会員のスキルアップにつながる研修や、まちの保健室事業を継続していく。少子化に伴い、看護職（看護師・助産師・保健師）の人材確保が重要課題と考える。島根県看護協会ナースセンターと連携しながら、小学生・中学生・高校生に向けたアプローチを強化していく必要がある。

出雲市

令和４年度の実施内容	成果・課題等（令和４年度）
【医療介護連携課】 １ 医療介護連携推進（ルピナスプランに基づき実施） (1) ＡＣＰの普及啓発 ・ACPをテーマにした在宅医療座談会の開催が増えており、コロナ禍ではあったが、令和4年度の開催回数は20回以上となった。 ・出雲市版終活支援ノート「あんしんノート」の紹介チラシを、介護保険証（65歳到達時）に加え、今年度から後期高齢者医療保険証（75歳到達時）に同封し、考えるきっかけとした。 (2) サービス提供体制の充実 ① ルピナスLINEによる研修機会や取組情報の共有 令和3年10月に開設したルピナスLINEの友だち登録を勧め、市内の医療・介護関係者による研修機会や取組情報の共有を図っている。 ② 「まめネット」を用いた情報連携の推進 ケアマネジャーが病院に提出する「入院時情報提供書」を、「まめネット」を介して迅速、安全に送受信するしくみを、県中での試行を経て、慢性期を除く全病院に拡大した。 ③ 地域ケア個別会議の運営 地域内の多職種とケアマネジャーの連携を推進し、地域資源を活用した地域課題解決の取組につなげるために、テーマを設定して各地域で開催した。 事例検討における専門職の助言により、重度化防止に資するケアプランの質の向上を図っている。 ④ 在宅医療介護連携推進補助金（公募枠）の新設 新たな補助対象団体による多様な活動を支援する中で、入退院時における身寄りのない高齢者への支援体制の検討などを進めた。 ⑤ 条件不利地域における訪問診療・訪問看護の体制整備の支援 県の事業を活用し、中山間地域等に赴く医療機関等に補助金を交付した。 ２ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 ① 健診結果に基づくハイリスクアプローチ 低栄養予防、糖尿病性腎症の訪問指導対象者を抽出し、啓発と希望者への指導を行なった。 ② 「通いの場」へのポピュレーションアプローチ 介護予防、健康づくりの啓発に、「食」にも大きく関わる口腔ケアを取り入れ、自己の状態把握と、歯科定期受診の勧奨などを行った。	【医療介護連携課】 ・在宅医療座談会の開催数が増加し、在宅医療やＡＣＰに関する啓発を進めているが、開催地域に偏りがあるため、市全域で啓発が図れるよう広報していく必要がある。 ・独居や高齢者のみの世帯の増加が顕著であり、家族介護力の低下が懸念される中、在宅療養をどう支えていくか、また、中山間地域における医療・介護サービスをどう確保していくか等の課題がある。
【福祉推進課】 ①病気や障がいがあっても安心して生活が送れるよう、保健や医療等と連携し、福祉サービス等の提供を行った。 ②出雲市施策推進協議会の専門部会において、地域生活支援拠点や精神障がい者の地域移行について検討した。 ③精神疾患及びこころの健康に関する相談対応をした。 ④保健師が生活保護受給者の心身の健康管理や相談を行った。 ⑤「ひきこもり相談窓口」を設置し、来所や電話等の相談支援を行った。 ⑥保健、医療、福祉、子育て等の必要なサービスをコーディネートする医療的ケア児コーディネーターの設置を推進した。	【福祉推進課】 ○福祉を支える人材不足 ○地域包括ケアシステムを活用した精神障がい者の支援についての検討を保健所等とも協働で更にすすめる必要がある。 ○医療的ケアが必要な児（者）を支える資源の拡充が必要である。

出雲市

令和４年度の取組内容	成果・課題等（令和４年度）
【健康増進課】 出雲市健康のまちづくり推進会議を年２回（８月２２日、１１月２４日）開催 ・平成３年度出雲市健康づくり・食育に関するアンケート結果報告 ・出雲市健康のまちづくり基本計画（第２次出雲市健康増進計画・第３次出雲市食育推進計画）の中間評価を行った。	【健康増進課】 ＜成果＞ ・出雲市健康のまちづくり基本計画の前半５年間の取組、目標の評価を行い、成果と課題、今度の重点取組について、検討、作成することが出来た。 ＜課題＞ ・出雲市健康のまちづくり基本計画（健康増進計画および食育推進計画）の推進と進捗管理
１．母子保健 ①妊娠期からの切れ目ない支援 ・母子健康包括支援センターにおいて、支援を要する家庭が産後に必要を支援が受けられるよう、産前から支援体制の構築を行った。市内産婦人科医療機関、保健所、助産師会、市関係課で構成する出雲市母子健康包括支援センター関係者会議を開催し、課題の共有や支援策などを話し合った。 ②子どもの健やかな育ちを支援する体制整備 ・育児不安の軽減に向け、全戸訪問や産後ケア事業、親支援グループ等各種教室や子育てサポーターの育成・配置などを行った。産前産後の負担軽減のため、家事育児訪問サポート事業を開始した。 ・乳幼児健康診査の実施、歯や食事・メディア等基本的生活習慣の学習の機会の提供を行った。 ・多胎児家庭の支援のため、多胎ピアサポート事業を開始した。 ・健康なまちづくり推進会議親子ネットワーク会議を開催し、課題の共有、今後の取組について検討を行った。 ③経済的負担の軽減 ・妊産婦健康診査実施や不妊・不育症治療費助成等を行った。多胎妊婦の妊婦健康診査および多胎妊娠特有の検査等について、妊婦健康診査に追加して助成を開始した。 ・出産・子育て応援交付金事業における経済的支援を現金給付にて開始した。	○母子保健 ＜成果＞ ・妊娠・出産・子育てに関わる機関や団体との連携強化を図ることができた。 ・妊娠期も含めた子育て家庭に対し、家事育児訪問サポート事業を開始したことで、家事育児負担の軽減につながった。 ・コロナ禍にあったが、感染症対策を講じながらすべての母子保健事業を再開し、健康づくり活動や子育て支援を行った。 ＜課題＞ ・支援を要する妊婦、子育て家庭は減少傾向にはなく、支援体制の強化が必要である。 ・乳幼児健康診査の機会を捉えて様々な保健指導や啓発を行っているが、充実した健康診査体制の維持のために、専門職種の確保が必要である。

出雲市

令和４年度の実施内容	成果・課題等（令和４年度）
２．成人保健 個人の健康管理を支援し、健康寿命の延伸をめざし、各種保健事業を実施 ①特定健診 ・医療機関の協力のもと案内期間後の受入れや休日健診を実施し、受診機会を確保 ・対象者には受診券送付と受診状況に応じた通知などによる受診勧奨を実施。 ②健康管理や生活習慣病予防の推進 健康相談や教室を実施したほか、特定健診結果に基づく特定保健指導の実施。 高血圧や糖尿病、腎症ハイリスク者への保健事業を実施。 ③がん検診 ・国の指針に基づき、がん検診の見直しを実施。 ・R4年前立腺がん、R5年へリカルCTの廃止。胃がんリスク検診の対象者縮小。 ・二次読影を可能とするクラウドシステムによる胃内視鏡検診の実施。 ・検診受診率及び精検受診率向上を図るため、関係機関・団体等と連携し、がん検診の周知をすると共に、市のホームページやSNS、防災無線等を積極的に活用。 ④申込みがしやすいよう、各種集団健（検）診にしまね電子申請システムを導入。 ⑤青壮年期・高齢期健康づくりネットワーク会議を9月22日に開催 6つの分野「運動」「歯」「栄養」「心」「たばこ・アルコール」「健康管理」の過去5年間の取組をまとめた。 各委員からの取組報告を踏まえ、健康増進計画の目標達成に向けて、これから先の5年間に地域・関係団体又は個人で取り組みそうなことについて、ラベルワークと意見交換。 ⑥職域と連携した健康づくり ・包括連携協定を結んでいる保険会社や業種団体と連携し、働き盛り世代へ多面的的に情報発信。 ・働きざかりの健康づくり推進連絡会を開催し、健康実態や健康に関する取組の共有、検討。 ・庁内職域関連部署と連携し、事業所の健康経営につながるセミナーを実施。 ⑦自死対策 心の健康についての正しい知識の普及と相談窓口について啓発。	○成人保健 ＜成果＞ ・胃内視鏡検診を実施したことで、50代の胃がん検診受診者が、R3年度受診者の10倍となり、働き盛り世代の受診率向上につながった。 ・各種健（検）診申込みに、しまね電子申請システムを利用した申込み者が増え、受診者の利便性につながった。 ・重点的な取組を積み重ね、R3年度特定保健指導実施率が向上した。特定健診後のハイリスク者への保健事業において、対象者を見直し、効果的にアプローチできるようになった。 ＜課題＞ ・早期発見や治療、重症化予防につながるよう、引き続き、各種健（検）診受診率向上をめざす必要がある。
３．感染症対策 〔新型コロナウイルス感染症関連〕 ①新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市民に対して手洗い、手指消毒、３密回避などの基本的な感染予防対策について呼びかけを行うと共に、感染症に対する正しい知識の普及啓発を行った。 ②コロナワクチン接種を推進した。 ③新型コロナウイルスに関する一般健康相談を開設し、市民からの相談業務に対応をした。 ④市内での新型コロナウイルス感染拡大を受けて、保健所に対し、市保健師が支援を行った。 〔予防接種関連〕 ⑤予防接種事業を実施することにより、市民の健康維持・増進を図り、伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延、罹患による重症化を防ぐことに努めた。 ＜熱中症、食中毒等＞ ⑥熱中症の予防と応急処置に対する知識の普及啓発、食中毒の予防対策として広報紙や市ホームページに掲載し、注意報、警報発令時（食中毒警報、熱中症アラート）には、防災行政無線により市民への周知を実施した。 ⑦感染症や食中毒が発生、もしくは疑われる事案が発生した場合においては、関係機関との連携を密にし、発生状況の把握と対応について協議をした。	○感染症対策 ＜成果＞ 予防接種事業の推進により小児の予防接種では高い接種率となっているほか、HPVワクチンについては、接種勧奨再開やキャッチアップ接種により接種者が増加している。また、コロナワクチンについても、３回目接種までは60歳以上の方の90%以上が接種完了となっており、４回目、５回目接種も高齢者では高い接種率となっている。 ＜課題＞ 一方で、ワクチン接種の需要変動や、製造過程トラブル、天災等によって、ワクチン供給量の減少や遅延が発生した場合、医療機関へのワクチン供給に支障が発生する。ワクチンの供給不足によって、定期接種として接種が出来ない事態が発生しないよう安定供給確保のため、引き続き、国（厚生労働省）・県での対応が必要である。 感染症の予防や拡大防止には、正しい知識と予防方法の周知を継続的に努める必要がある。

出雲市

令和４年度の取組内容	成果・課題等（令和４年度）
４．食育の推進 ①食育推進ネットワーク会議を10月3日に開催し、市と各機関の取組を共有し、計画の中間評価結果から、出雲市での現状と今後の取組等について意見交換を行った。 ②令和3年度から食育推進ネットワーク会議で「よく噛んで食べよう！」を取組のテーマと決定し、各団体で取組を継続して行った。 ・広報いずもで年２回記事を掲載。 ・6月の食育月間に併せて、食育ネットワーク会議の委員へ向けて取組実施の依頼と歯科のチラシを送付した。 ③食のボランティア育成講座を10回開催 ④地産地消の推進について、農業振興課、水産振興課と連携し、広報いずもで年4回記事を掲載した。 ⑤ホームページ（我が家のおすすめレシピ募集）を活用し、情報発信を行った。 ⑥地域における食育の推進として、食のボランティア連絡協議会へ委託し、地域での食育を推進した。調理を伴う活動も少しずつ再開できた。	○食育推進 ＜成果＞ ・食育推進ネットワーク会議の関係機関や団体と協力し、「よく噛んで食べよう！」をテーマに取組を行うことで、連携強化ができた。 ・新たに9人の食のボランティアを認定した。 ＜課題＞ ・食を通じた心身の健康づくりの更なる推進を図るために、地域や関係機関と連携し、広く周知していく必要があるが、コロナ禍で活動が減っている状況がある。状況をみながら、徐々に活動の再開（内容の見直し等）や啓発方法の検討する。 ・若い世代や働き盛り世代へ効果的なアプローチを行い、機会を捉えて啓発を強化していく必要がある。
５．地域力を活かした健康づくりの推進 コミュニティセンター単位で展開する健康づくり活動を基軸に置き、健康づくり推進員や各関係団体とともに取り組んでいる。 ①健康づくり推進員 ・研修会：年3回開催 【1回目】4月26日（火）「健康づくり推進員とすすめるまちづくり」 【2回目】10月4日（火）「ムリなくおいしく減塩カット」 【3回目】1月20日（金）「ゲートキーパー養成研修」 ・代表者会：年1回開催　9月20日（火） 意見交換　「地区での運動の取組と活動を広めていくための工夫について」 ・健康づくり推進員連絡会を全地区で開催 地区ごとに健康課題に応じた活動目標を決め、活動計画書を作成。計画に沿った活動を推進 ・健康づくり推進員の周知として「広報いずも」に活動等掲載 ・健康づくり推進員の活動の見える化を図るため「健康づくり推進員の活動報告書」を作成し、健康づくり推進員やコミュニティセンターへ配布 ②地区の組織や団体と連携を図り、健康づくりを推進 ・しまね健康寿命延伸プロジェクト推進事業 高松地区をモデル地区として、令和3年度から継続した健康づくり活動を支援	５．地域力を活かした健康づくりの推進 ＜成果＞ ・健康づくり推進員は研修会や代表者会を通じて、健康づくり活動のヒントを地区に持ち帰り実践している。 ・コミュニティセンター毎に関係機関や団体で健康づくりについての話し合いを持つネットワークの会が１か所発足（43コミセン中14地区発足済） ＜課題＞ ・健康づくり活動が地域のすそ野に広がる仕組みづくりが必要